

## 42 当院における BAIVT の現況と問題点 ～患者の視点から有用性を評価～

JA 長野厚生連佐久総合病院 透析室

◎宮下 裕夫 菊池 由香 荒井 真 玉川 清利 沢 仁子 池添 正哉 山口 博

### 【はじめに】

近年透析患者のシャントトラブルに、Blood access Interventional Therapy 以下 (BAIVT と略) が有用な手段として普及してきている。

当院では 1997 年 10 月より BAIVT を導入 2002 年末日までの 5 年間に 212 症例に治療を施行し良績を挙げている。そこで、治療を受けた患者がこの治療をどのように評価し、シャントのセルフケア意識がどのように変化したかを分析したので報告する。

### 【対象及び方法】

#### 1. 【研究方法】

1998 年～2002 年末日までに、BAIVT を受けた患者の現況を調査。

質問項目を作成し、当院の患者と小海サテライト透析室の患者計 191 名のうち BAIVT を受けた患者 100 名を対象として、個別に聞き取り調査を行った。

#### 2. 【研究期間】

平成 15 年 1 月 28 日から 6 月 18 日までに、当院に在籍した患者計 191 名の中より 100 名を対象に BAIVT について聞き取り調査を実施。

### 【研究結果】

#### 1. BAIVT の現況

当院で 1998 年から 2002 年までの患者の症例数と治療件数を示す。

年度	症例数	件数	DM 腎症
1998	34	34	2
1999	42	49	3
2000	47	72	8
2001	46	65	7
2002	43	59	12

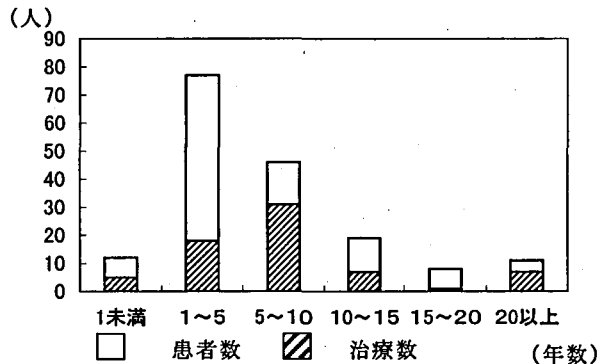
宮下裕夫 長野県厚生連佐久総合病院 透析室  
〒384-0401 南佐久郡白田町大字白田 197 0267-82-3131

当院での 1998 年から 2002 年までの患者 症例数と治療件数を示す。

98 年 34 件 34 症例、99 年 49 件 42 症例、2000 年 72 件 47 症例、2001 年 65 件 46 症例、2002 年 59 件 43 症例。そして、2000 年以降からは、予防的に BAIVT 施行。急性シャント閉塞の症例数が減少傾向にあることから、件数と症例数が共に、徐々に減少している傾向にある。ただし、原疾患が DM の患者の症例数が徐々に増加傾向にある。

#### 2. BAIVT の現況 (シャント歴と治療の分布)

当院での BAIVT を受けた患者のシャント歴と治療の分布図を示す。

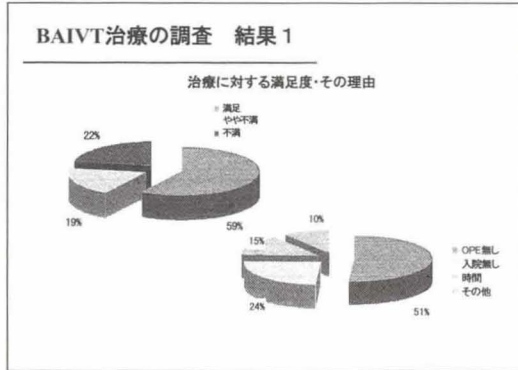


期間中当院に在籍した患者のシャント開存期間 (シャント歴) に BAIVT を経験した患者群を当てはめたものです。(下の斜線部分が治療を経験した患者の症例数である。)

シャント閉塞のリスクは 5 年以上 10 年未満がもっとも高く、対象の群の 67% が BAIVT の治療経験者である。

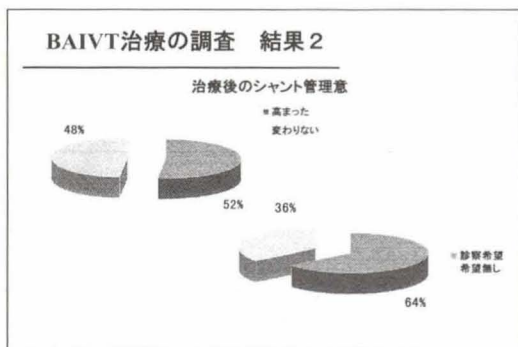
シャント歴 15 年を過ぎて、自己シャントを良好に管理されている患者群もあり、この患者層は、食事管理、摂取水分管理、血圧コントロールなどの身体管理良好な患者群であることが明らかとなった。

### 3. BAIVT の調査結果 1



BAIVT に対しての満足度を調査。およそ 6 割弱(59%)の患者が満足と回答している。そして満足とした内容は、51%は手術をしない(切開しない)24%が入院を必要としない 15%は治療時間が短いと回答している。

### 4. BAIVT の調査結果 2



治療後のシャント管理意識についての質問には半数以上の(52%)の患者は管理意識が高まったと回答している。さらに、治療後は 64%の患者は定期的なシャント診察を希望している。

### 5. BAIVT の調査結果 3



調査結果 3として、やや不満 19%、不満 22%と回答した群については、治療施行中、施行後の疼痛と皮下出血について不満と回答している。

#### [考察]

当院の現況 1からは、予防的 BAIVT 施行により早期に診断治療することで急性シャント閉塞が減少傾向にある。そして、閉塞の防止とシャントの長期使用が可能となっているといえる。

現況 2からシャント歴 5~10年の患者群がシャント閉塞のリスクが最も高く。今後は、この群を中心としたシャント管理指導が重要と考えられる。

BAIVT の聞き取り調査から患者は、外科的治療を必要とせず、入院のリスクを回避できる点でこの治療手技を評価している。

更に、治療後はシャントに対するセルフケアの意識が向上していることが明らかになった。

問題点としては、治療中、治療後の疼痛の緩和・皮下出血の予防が今後のケアの課題である。

#### [おわりに]

患者は従来の外科的治療にくらべ、侵襲が少なく、入院のリスクを回避できる点を評価している。今後は、患者の高齢化、透析治療の長期化、糖尿病性腎症の増加に伴い、BAIVT の有用性はさらに高まることが予測できる。

#### [引用参考文献]

- 1) 大平整爾 阿部憲司:二次的シャント作成法とその限界、臨床透析 9: 1173-1181
- 2) 阿岸鉄三 春口洋昭:慢性血液患者用ブラッドアクセスの現況、臨床透析 16: 1447-145
- 3) 合屋忠信:動脈表在化、標準ブラッドアクセス、59-62 診断と治療社、東京 1999
- 4) 太田和夫:図説ブラッドアクセス~作り方と使い方、南江堂、東京 1991
- 5) 大平整爾 阿部憲司:二次的シャント作成法とその限界、臨床透析 9: 1173-1181
- 6) 後藤靖雄 田沢 聡 田部周市他:透析シャント不全の治療:閉塞に対する IVR、IVR1999;14: 181-189
- 7) 天野 泉:ブラッドアクセスインターベンション、PharmaMedica1999; 17: 41-44